

理工学部の留学生受入状況と今後の課題

国際交流委員会

理工学部 上野圭司

群馬大学は年間約300名の留学生を受け入れているが、その約6割は理工学部（大学院理工学府を含む）に在籍している。

表1は国別受入学生数の年次変化である。留学生の出身国はアジア圏がほとんどで、他地域、特に先進諸国からの留学生はほとんどいない。また、アジア圏でも中国、マレーシア、ベトナムに偏っており、この3カ国だけで合計100人以上である。なおここ数年、中国、ベトナムは漸減傾向にあり、変わって増えているのがモンゴルである。インド、中南米、アフリカも1人もいないが、アフリカに関してはH29年10月から ABE イニシアティブの学生が2名在籍している。中国、マレーシア、ベトナムとの絆を強化するとともに、世界各国から広く留学生を受け入れることが今後の課題である。

表2には、留学生の出身国と在籍課程をまとめた。大学院に在籍しているのは、ほとんどが中国からの留学生である。学部に関してはマレーシアからの留学生が多数を占めているが、残念ながら大学院に進学する学生はほとんどいない。マレーシアからの留学生はマレーシア政府から奨学金を得ているが、大学院については奨学金が支給されない。大学院進学を望んでいる学生は多いので、奨学金の手当をできれば進学者は増えるだろう。

表3は学科、課程別の留学生数である。機械知能システム理工学科および電子情報理工学科が多い。機械と電気は産業の基盤であり、この分野の技術者はアジア諸国での需要が高く、就職も容易と聞いている。また、機械知能システム理工学科と環境創生理工学科は留学生受入に積極的で、海外在住の受験者が大学院入試を受けやすいよう、来日しての学力試験や面接試験を免除するなどの制度を設けている。なお、先日表敬訪問を受けたマレーシア大使館の方の話では、機械知能システム理工学科は国際的な教育の質保証システムである JABEE 認定を受けているため、マレーシアでは人気が高いとのことであった。昨今の大学改革におけるキーワードの一つが質保証であるが、国際的な質保証システムの認定は留学生確保の手段となり得る。

理工学部の抱えている課題の一つは博士後期課程充足率の改善であり、後期課程に入学・進学する留学生の確保は重要課題である。群馬大学の場合、待っていたのでは集まらないので、何らかの方法でこちらから候補者にアプローチする必要がある。理工学部の強みは世界に伍する先端研究にある。従って、各教員の研究交流に基づく学生の受入・派遣の拡大が現実的で持続可能な方策であろう。理工学部では、各教員の国際ネットワークを利用して留学生確保につなげるための支援を始めている。

また、教員の国際共同研究などで受入・派遣する留学生に対して、留学のメリットを具体的に与えることも必要である。その強力な方策の一つは、ダブル/デュアルデグリー制度であろう。この制度があれば、留学生に派遣元・派遣先両大学から学位を与えることができ、留学に対する強い動機付け

となりうる。現に多くの協定校からダブル／デュアルデグリー制度の構築を強く求められている。本学でもダブル／デュアルデグリー制度の導入を積極的に進めるべきと考える。

理工学部の大学院在籍者のほとんどは中国からの留学生であることをすでに述べた。その内訳を見ると、瀋陽化工大学からの留学生が圧倒的に多い。瀋陽化工大学と理工学部との国際交流は30年の歴史があり、理工学部（旧工学部）で学位取得後に瀋陽化工大学や廈門大学で教授等の重要な職に就き活躍している方が数名いる。今ではこれらの元留学生が交流のキーパーソンとなり、多くの留学生を理工学部へ送り出し、また、GFL研修などで多くの本学学生を受け入れてくれている。30年前にまいた種が、今では大きな花を咲かせている。理工学部を応援してくれるキーパーソンを他の大学にももてるよう、長期的な視点をもって交流に取り組む必要がある。

表1 国別留学生数の推移（各年度4月1日現在）

地域・国名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
アジア	バングラデシュ	3	3	2	0	0	
	マレーシア	43	43	36	37	44	41
	インドネシア	6	6	4	2	3	5
	韓国	2	2	3	1	2	1
	モンゴル	1	1	3	5	6	10
	ベトナム	27	27	17	13	13	12
	中国	82	82	70	60	52	55
	台湾	2	2	1	3	2	1
	カンボジア	2	2	4	3	2	4
	タイ	3	3	4	7	4	3
	フィリピン	1	1	1	1	1	1
	パキスタン	1	1	0	0	0	0
	ネパール	1	1	1	1	2	2
	ラオス	0	0	3	2	3	2
	スリランカ	0	0	0	1	2	3
タジキスタン	0	0	2	1	0	0	
中近東	トルコ	1	1	0	0	0	0
	イラン	1	1	1	1	1	1
	レバノン	1	1	0	0	0	0
	シリア	0	0	0	0	0	1
アフリカ	エジプト	1	1	0	0	0	0
	ケニア	2	2	0	0	0	0
	コートジボワール	1	1	0	0	0	0

地 域 ・ 国 名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ヨーロッパ	イギリス	1	1	1	0	0
	スペイン	1	1	0	0	0
	フランス	0	0	0	0	2
北米	アメリカ	1	1	0	0	0
合 計	184	184	153	138	137	144

表2 国別留学生数内訳（平成29年11月現在）

地 域 ・ 国 名	学 部	修 士	博 士	そ の 他	合 計	
アジア	マレーシア	41	0	0	0	41
	インドネシア	3	0	3	0	6
	韓国	0	0	1	0	1
	モンゴル	4	2	1	3	10
	ベトナム	7	4	0	0	11
	中国	9	25	14	14	62
	台湾	0	1	0	1	2
	カンボジア	3	1	0	0	4
	タイ	0	0	2	1	3
	フィリピン	0	0	1	0	1
	ネパール	0	1	0	0	1
	ラオス	1	1	0	0	2
	スリランカ	0	3	0	0	3
中近東	イラン	0	0	1	0	1
	シリア	0	1	0	0	1
アフリカ	エジプト	0	1	0	0	1
	コートジボワール	0	1	0	0	1
ヨーロッパ	フランス	0	0	0	3	3
合 計	68	41	23	22	154	

表3 学科別留学生数内訳（平成29年11月現在）

学 科 名	学 部	修 士	博 士	そ の 他	合 計
化学・生物化学科	13	6	2	1	22
環境創生理工学科	9	4	9	4	26
機械知能システム理工学科	26	16	6	15	63
電子情報理工学科	20	15	6	2	43
合計	68	41	23	22	154